

四日市市男女共同参画課 調査・研究事業

子育て世代のワークライフバランス

平成19年3月

NPO法人 体験ひろば☆こどもスペース四日市

目次

はじめに	2
事業概要	3
調査結果	4～22
配布したアンケート	23～26
調査まとめ	27～30
編集後記	31

はじめに

私たちが四日市市からファミリーサポート事業を委託され 3 年がたちます。この事業は簡単に言えば子どもを預けたい人と預かりたい人とを結ぶ事業です。お勤めをされていて保育園のお迎えに間に合わない、家族の看病などで子どもを見ていてくれる人がいると助かるなどと言う時に、街の中で助け合おうというシステムです。子育て中の依頼会員さんは預かってほしいというだけでなく、日常のしんどさや頑張っていることを誰かに聞いてほしいという思いがあり、それを受け止めることから始まります。

そして、この 3 年間の事業の中でたくさんの家族の姿が見えてきました。また、同時に私たちは長年の NPO 活動の中でも子育て中の親子をたくさん見てきました。子どもの豊かな成長を願って活動をしている私たちにとっては、子どもの育ちに家族のあり方は大きな影響を与えるを感じています。

乳幼児を持っている家庭をみると、働いている方の帰宅時間が 9 時、10 時になることが普通です。お父さんにとって土曜、日曜日は疲れて子どもは休息を妨げる存在であったりするわけです。その中で、母親は子育ての責任を一人で持つ結果にもなっていると感じています。ひとり親家庭になると同様な労働条件で働きつつ子どもを預けることも多く、更なる経済的な負担を強いられることにもなります。

さらに格差社会のなかで、人々の生活をものの豊かさから、心の豊かさへと価値観の変化も求められているのではないかと思うようになりました。

それを実現するために、子どもにも女性にも男性にも生きやすい社会、すべての人々がその人らしく生きられる権利がどう保障されているか、また権利意識を持っているかということがとても大切だということも分かってきました。

今回この委託事業の中でそのような観点で、四日市の子育て中の保護者の方の意識調査を実現することができました。

市内、公立、私立を問わずたくさんの保育園、幼稚園の協力を得、たくさんの方の意見を聞くことができました。ご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

調査・研究事業の概要

■事業名

子育て世代のワークライフバランス

■実施スケジュール

時 期	内 容
平成 18 年 10 月	実行委員募集
11 月	実行委員会立ち上げ
11 月 24 日	同時に、事業内容・アンケート案検討 三重男女共同参画センター所長 鈴山 雅子氏による研修会開催 講演『男女共同参画社会とは』
12 月中旬～	アンケート配布
12 月下旬～	アンケート回収 集計
平成 19 年 1 月～	分析

■調査にご協力いただいた方

四日市の幼稚園・保育園にお子さんを通わせている家庭

		配布数	回収数	
四日市市立保育園	23園	2000	1094	1214
私 立 保 育 園	2園	380	120	
四日市市立幼稚園	9園	1447	1135	1916
私 立 幼 稚 園	3園	1080	781	
合 計	37園	4907	3130	3130

■アンケート配布・回収の方法

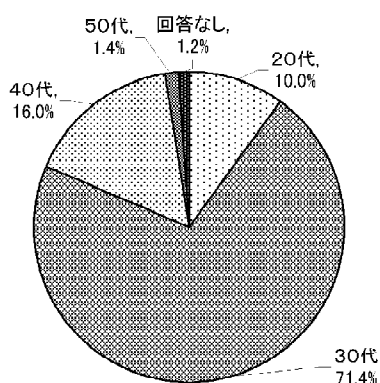
保育園、幼稚園のご協力の下各家庭に配布、回収していただきました。

プライバシーを尊重するために、回答は個別のシート、封筒に入れて別々の回収としました。

調査の結果

1.あなたは、 10代 20代 30代 40代 50代

回答なし	37	1.2%
10代	0	0.0%
20代	314	10.0%
30代	2234	71.4%
40代	501	16.0%
50代	44	1.4%
計	3130	100.0%

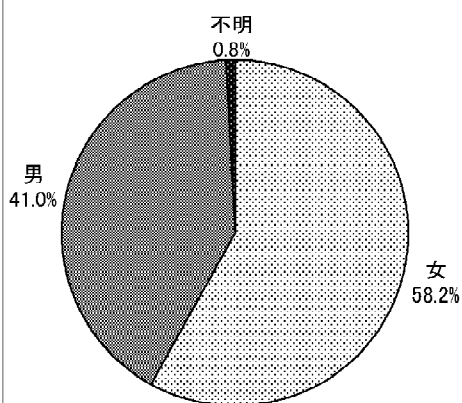


子育て世代を対象とした調査ということで、30代からの回答が71.4%、続く40代16%、20代10%の構成になります。
50代からの回答が、44人の方からあり、設問13の記述回答等から推測して、一部の祖父母が回答された可能性も考えられます。

3130人の回答は、予想を上回るものです。

2.あなたは、 女性 男性

女性	1821	58.2%
男性	1283	41.0%
不明	26	0.8%
計	3130	100.0%



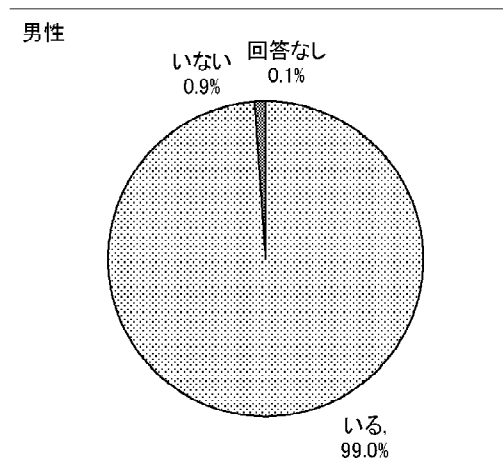
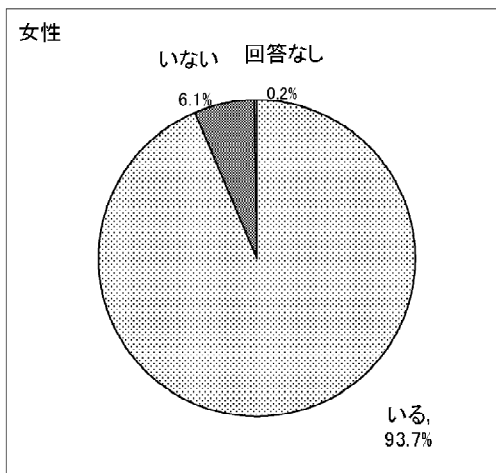
女性男性の関心の高さは、63.7%という回収率に現れています。男性からの回答が、全体の41%あり、予想を上回るものでした。男性の関心の高さが表れています。

女性男性の回答数に大きな偏りがなく、データとしてバランスが良いものになっています。

3. あなたは、パートナーがいますか。

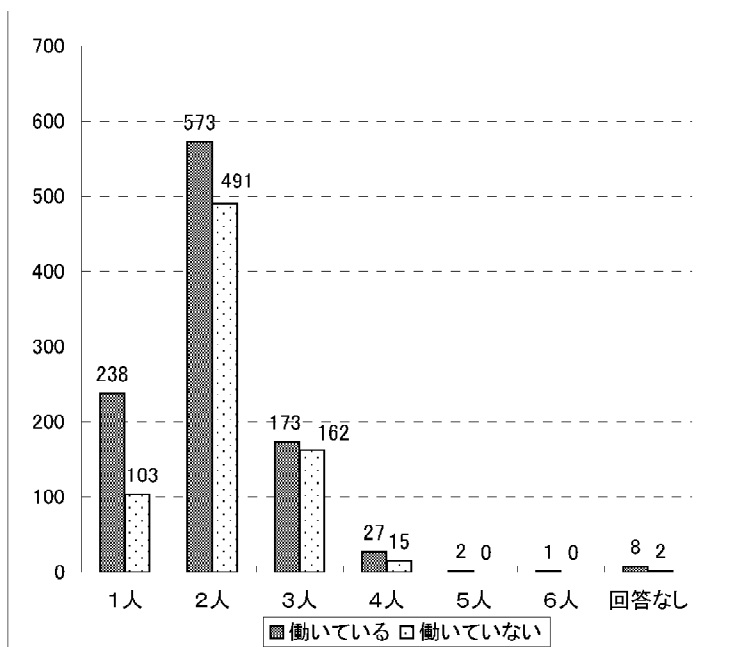
	女性		男性		不明
回答なし	3	0.2%	1	0.1%	20
あり	1707	93.7%	1270	99.0%	3
なし	111	6.1%	12	0.9%	0
計	1821	100.0%	1283	100.0%	26

回答があった女性男性とも、パートナーがいる人が9割を超えています。
ひとり親家庭からの回答は、7%123人となっています。
今回の調査・研究では分析を進めることはしませんが、「ひとり親家庭のワークライフバランスの分析」を次の課題のひとつとします。



4. あなたは、子どもがいますか。何人ですか。何歳ですか。

	働いている		働いていない	
回答なし	8	0.8%	2	0.3%
1人	238	23.3%	103	13.3%
2人	573	56.1%	491	63.5%
3人	173	16.9%	162	21.0%
4人	27	2.6%	15	1.9%
5人	2	0.2%	0	0.0%
6人	1	0.1%	0	0.0%
計	1022	100.0%	773	100.0%



女性を、働いている(フルタイム・パート・在宅就労)働いていない(無職)に分けて、それぞれの子どもの人数をグラフに表しました。参考のデータとしてご覧下さい。

一番年下の子どもの年齢により働き方の違い等ワークライフバランスの分析を次の課題のひとつとします。

※夫婦揃って回答された方々もあるため、女性のみを抽出して集計しました。

5. あなたの就労形態は、

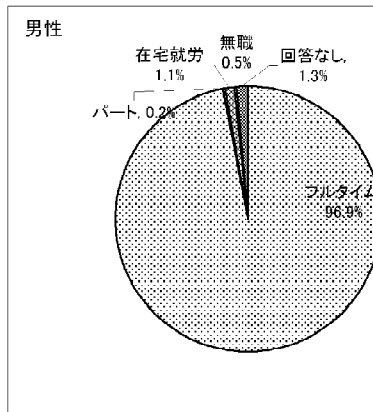
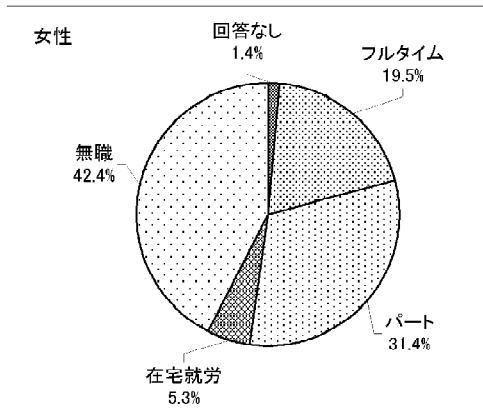
フルタイム パート 在宅就労 無職

	女性		男性		不明
回答なし	26	1.4%	17	1.3%	22
フルタイム	355	19.5%	1243	96.9%	3
パート	571	31.4%	3	0.2%	1
在宅就労	96	5.3%	14	1.1%	0
無職	773	42.4%	6	0.5%	0
計	1821	100.0%	1283	100.0%	26

女性のフルタイムの割合が低くなっています。それに対して無職の割合が高くなっています。

フルタイム、パートを合わせて、5割の人が働いています。

男性は、ほとんどがフルタイムで働いており、少数ですが在宅就労、パートという形態もあります。

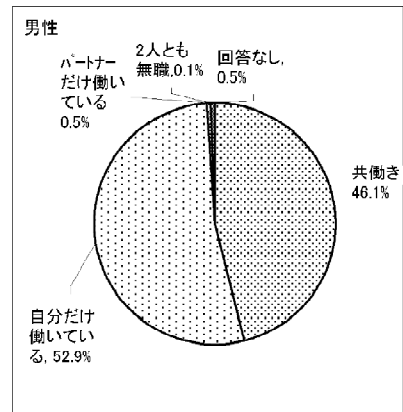
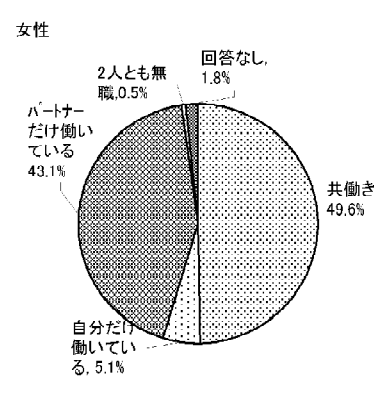
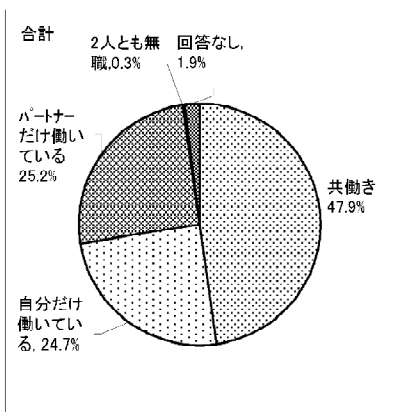


6. あなたの家庭は、

共働き 自分だけ働いている パートナーだけ働いている 2人とも無職

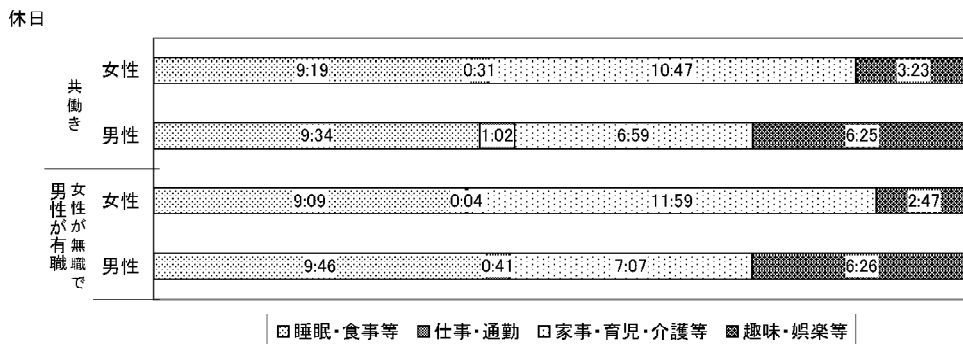
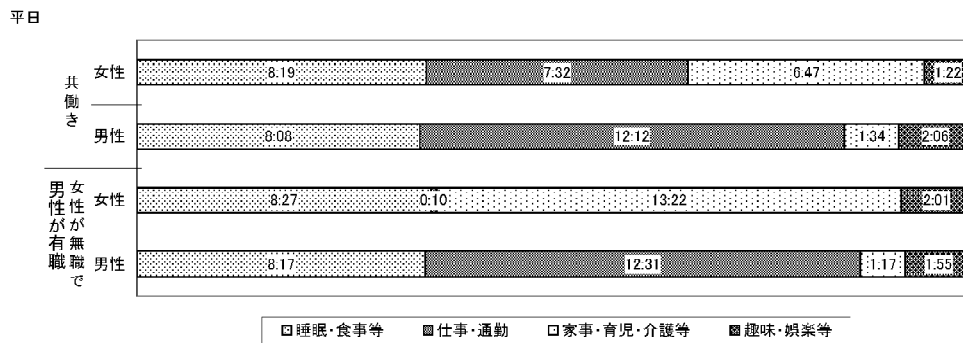
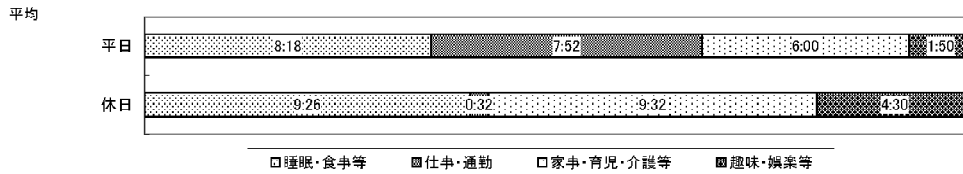
	合計	女性		男性		不明	
回答なし	60	1.9%	32	1.8%	6	0.5%	22
共働き	1498	47.9%	903	49.6%	591	46.1%	4
自分だけ働いている	772	24.7%	93	5.1%	679	52.9%	0
パートナーだけ働いている	790	25.2%	784	43.1%	6	0.5%	0
2人とも無職	10	0.3%	9	0.5%	1	0.1%	0
計	3130	100.0%	1821	100.0%	1283	100.0%	26

5割近い家庭が、共働き家庭になります。あとの5割の家庭は、どちらかだけが働いている家庭になっています。



7. あなたの生活時間について 一日のうち、それぞれに費やす時間をお答えください。

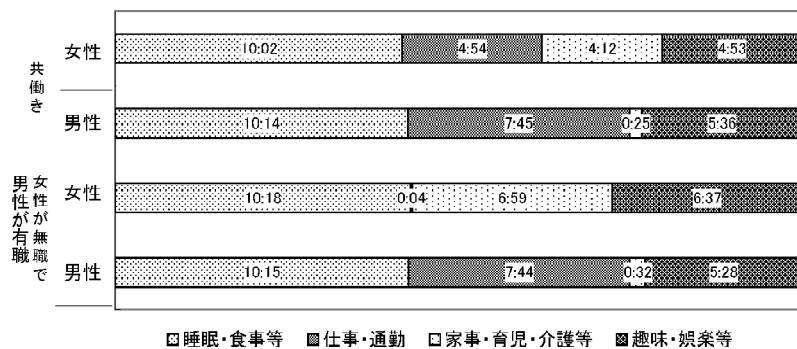
	平日					休日				
	平均	共働き		女性が無職で男性が有職		平均	共働き		女性が無職で男性が有職	
		女性	男性	女性	男性		女性	男性	女性	男性
睡眠・食事等	8:18	8:19	8:08	8:27	8:17	9:26	9:19	9:34	9:09	9:46
仕事・通勤	7:52	7:32	12:12	0:10	12:31	0:32	0:31	1:02	0:04	0:41
家事・育児・介護等	6:00	6:47	1:34	13:22	1:17	9:32	10:47	6:59	11:59	7:07
趣味・娯楽等	1:50	1:22	2:06	2:01	1:55	4:30	3:23	6:25	2:47	6:26



全国

	共働き		女性が無職で男性が有職	
	女性	男性	女性	男性
睡眠・食事等	10:02	10:14	10:18	10:15
仕事・通勤	4:54	7:45	0:04	7:44
家事・育児・介護等	4:12	0:25	6:59	0:32
趣味・娯楽等	4:53	5:36	6:37	5:28

全国

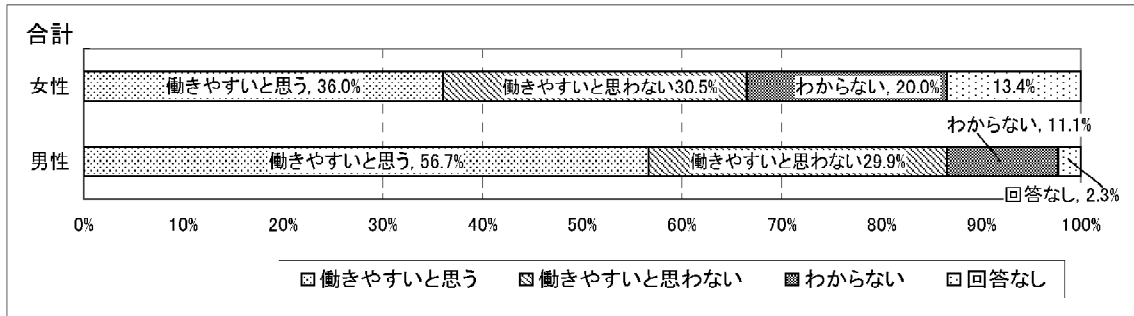


※資料出所：総務省「社会生活基本調査」(平成13年)

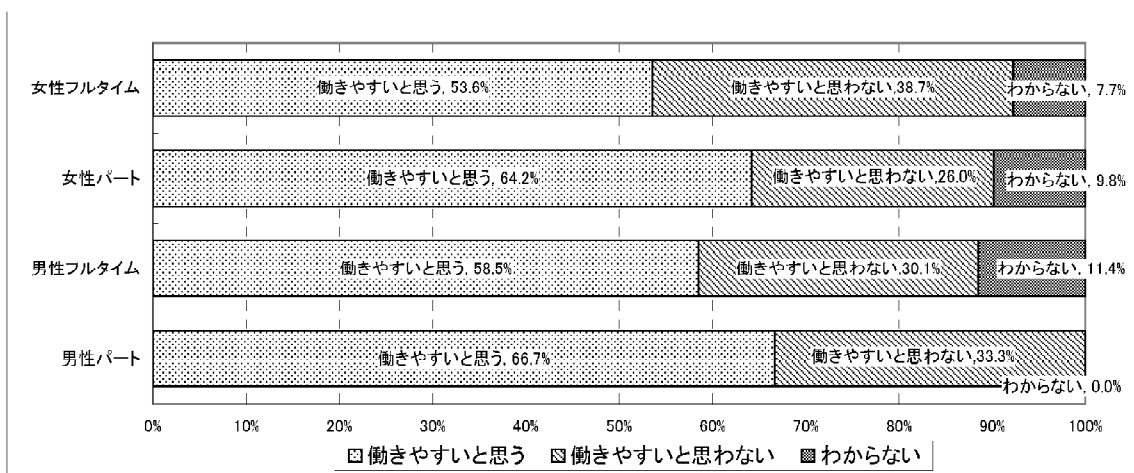
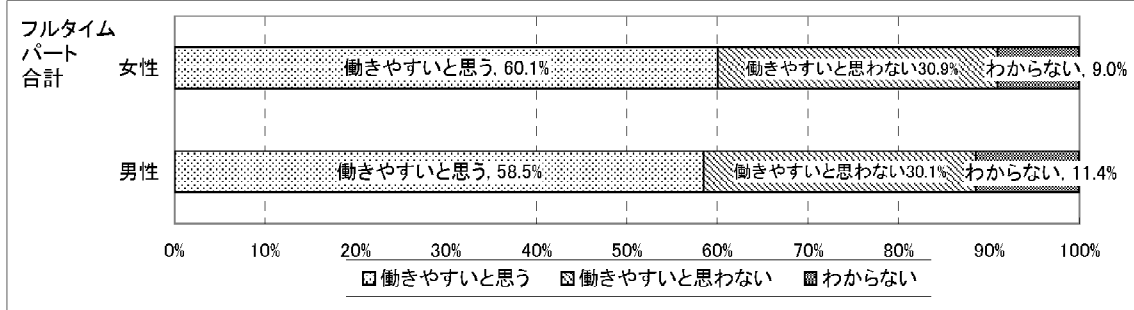
8. 現在のあなたの働きやすさについて

□働きやすいと思う □働きやすいとは思わない □わからない

	女性		男性		不明
回答なし	244	13.4%	29	2.3%	20
働きやすいと思う	656	36.0%	727	56.7%	2
働きやすいと思わない	556	30.5%	384	29.9%	2
わからない	365	20.0%	143	11.1%	2
計	1821	100.0%	1283	100.0%	26



	合計		女性		男性							
	女性	男性	フルタイム	パート	フルタイム	パート						
働きやすいと思う	548	60.1%	712	58.5%	188	53.6%	360	64.2%	710	58.5%	2	66.7%
働きやすいと思わない	282	30.9%	366	30.1%	136	38.7%	146	26.0%	365	30.1%	1	33.3%
わからない	82	9.0%	139	11.4%	27	7.7%	55	9.8%	139	11.4%	0	0.0%
計	912	100.0%	1217	100.0%	351	100.0%	561	100.0%	1214	100.0%	3	100.0%



女性について

「働きやすいと思う」と答えた人が、60.1%とわずかではあるが男性を上回り、形態別では、パートが64.2%と、フルタイム53.6%を上回っています。

男性について

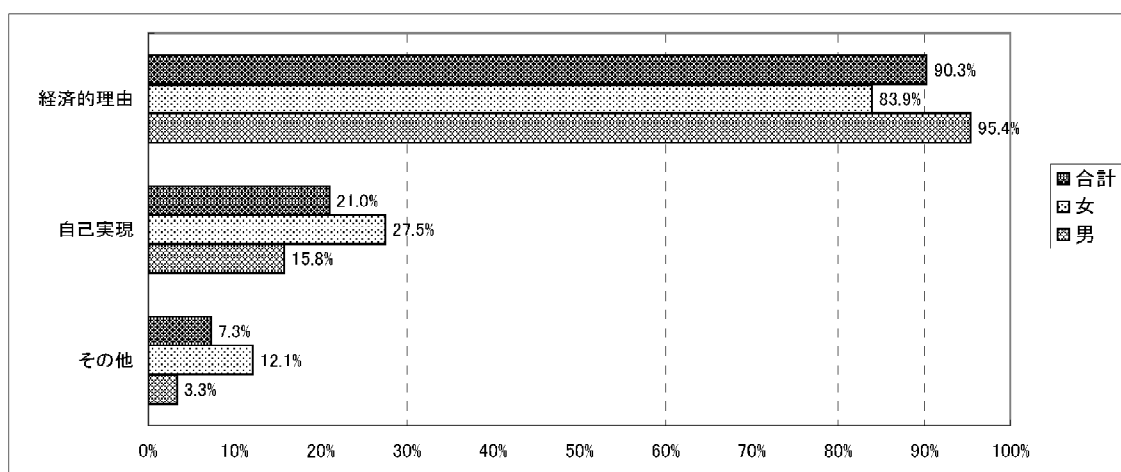
「働きやすいと思う」と答えた人が58.5%、「働きやすいとは思わない」と答えた人が30.1%となっています。

男性の就労形態のほとんどは、フルタイムとなっています。(設問5)
パートは実数では3人ですが、表・グラフに表しています。

9. 現在働いている方に 働く理由は何ですか。
 経済的理由 自己実現 その他()

	合計	女性	男性	不明
回答数	2270	1014	1256	6
経済的理由	2049 90.3%	851 83.9%	1198 95.4%	6
自己実現	477 21.0%	279 27.5%	198 15.8%	0
その他	165 7.3%	123 12.1%	42 3.3%	0
計	2691	1253	1438	6

※回答数(この設問に回答した人数)
 ※複数回答ありの為、計は回答数を超える
 ※%は回答数に対する割合



その他()の記述回答

女性の回答

ストレス解消等(8) …24時間家事育児はしんどいから。気分転換。
 空いた時間があるから(10)
 経済的理由(10)
 家業・自営業(16)
 自己実現(20) …好きな仕事だから。交友関係を広げる。
 義務(1)
 生きるため(6)
 他(6)

男性の回答

なんとなく(3)
 家業・自営業(6)
 自己実現(6)
 義務(8)
 生きるため(6)
 他(4)

両性とも、圧倒的に経済的理由が多く、自己実現の割合は、低くなっています。
 男女を比べると、女性のほうが自己実現のために働いている割合が高くなっています。

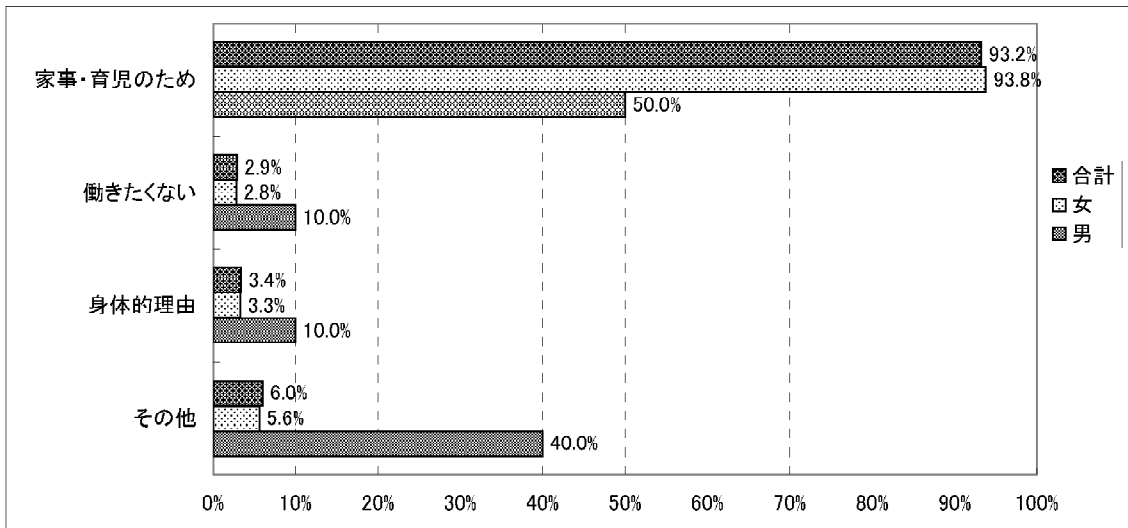
括弧内の記述回答には、選択肢と重複する回答もありました。

9. 現在働いていない方に 働かない理由は何ですか。

□家事・育児のために □働きたくない □身体的理由 □その他()

	合計		女性		男性		不明
回答数	797		787		10		0
家事・育児のため	743	93.2%	738	93.8%	5	50.0%	0
働きたくない	23	2.9%	22	2.8%	1	10.0%	0
身体的理由	27	3.4%	26	3.3%	1	10.0%	0
その他	48	6.0%	44	5.6%	4	40.0%	0
計	841		830		11		0

※回答数(この設問に回答した人数)
 ※複数回答ありの為、計は回答数を超える
 ※%は回答数に対する割合



その他()の記述回答

女性の回答

- 働く意思はあるが働けない(15)
- 子どもの病気・障害のため(5)
- 育児休業中(2)
- やることあるため(2)
- 他(6)

女性の大多数が家事・子育てのために理由を挙げています。
 記述回答には、「働く意思はあるが、働けない」が多く挙がっています。

男性の回答は設問6より、ほとんどの人が働いているため少数になっています。

10. 仕事等と家事・育児のバランスについて 自分自身について

まずあなた自身についてお答え下さい。

* 希望としては、

仕事等社会的活動に専念 どちらかといえば仕事等が優先

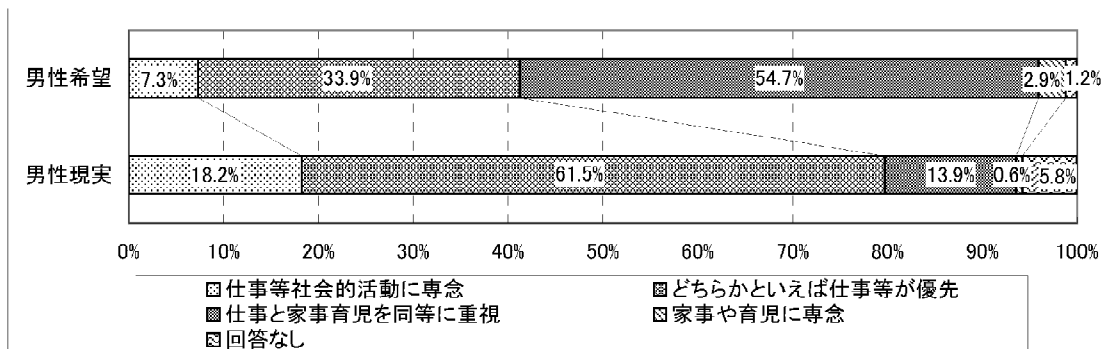
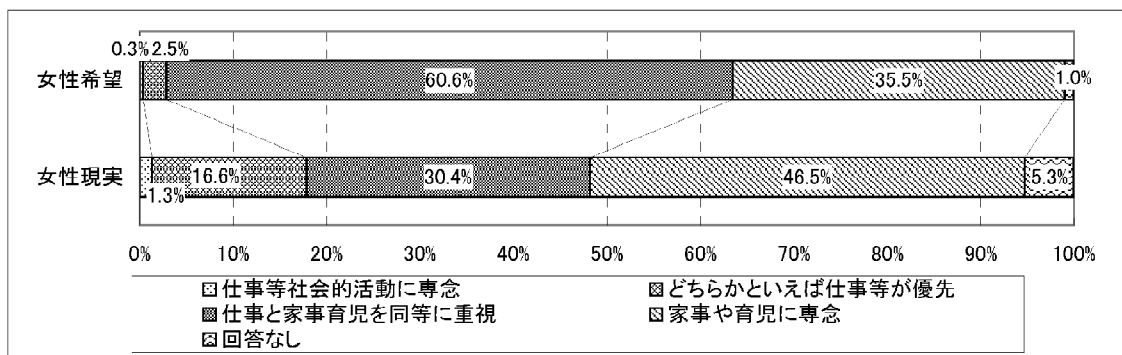
仕事等と家事育児に同等に重視 家事や育児に専念

* 現実には、

仕事等社会的活動に専念 どちらかといえば仕事等が優先

仕事等と家事育児に同等に重視 家事や育児に専念

	女性				男性				不明	
	希望	現実	希望	現実	希望	現実	希望	現実		
回答なし	18	1.0%	96	5.3%	15	1.2%	74	5.8%	20	19
仕事等社会的活動に専念	6	0.3%	23	1.3%	94	7.3%	234	18.2%	0	0
どちらかといえば仕事等に優先	46	2.5%	302	16.6%	435	33.9%	789	61.5%	2	2
仕事等と家事育児に同等に重視	1104	60.6%	553	30.4%	702	54.7%	178	13.9%	4	4
家事や育児に専念	647	35.5%	847	46.5%	37	2.9%	8	0.6%	0	1
計	1821	100.0%	1821	100.0%	1283	100.0%	1283	100.0%	26	26



女性について

女性の現実に「仕事等に専念」している人は1.3%だが、「仕事等に専念」を希望している人は、0.3%に留まります。
「どちらかといえば仕事等が優先」も、現実には16.6%に対し、希望する人は2.5%となっています。現実には仕事中心の生活を送っている人の、5分の4がそれを希望していないこととなります。

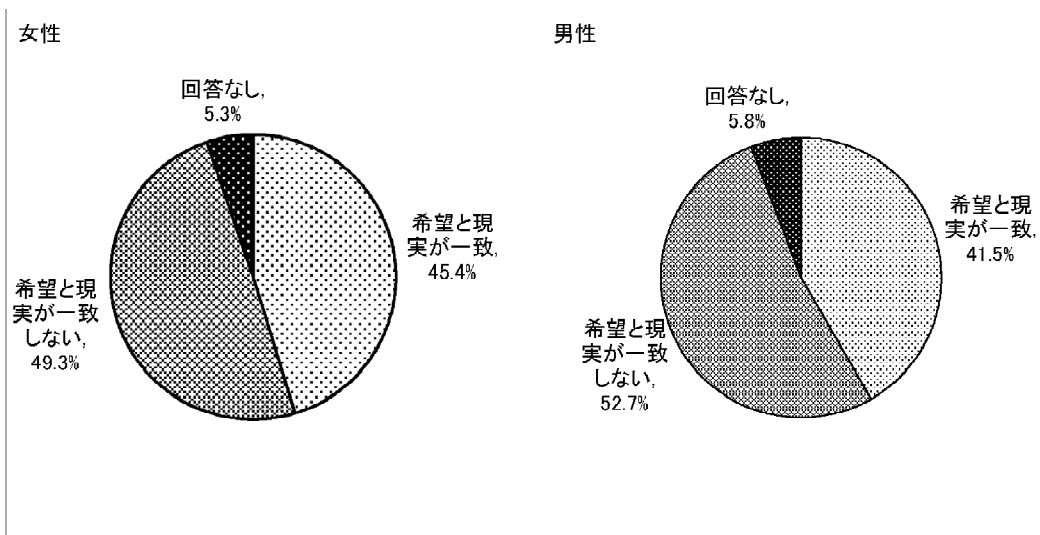
「仕事と家事・育児を同等に重視」を望む人は、男性とおなじように60.6%に達し、現実には、「仕事と家事・育児を同等に重視」の生活をしている人はその半数30.4%に大きく減少します。
「家事や育児に専念」を希望する人は、35.5%に対し、現実には46.5%と11ポイント増えています。現実には「家事や育児に専念」している人の4分の1の人が、「家事や育児に専念」することを希望していないことを表しています。

男性について

男性の「仕事等に専念」を希望している人は7.3%、現実には「仕事等に専念」を希望している人は、2.3倍の18.2%となっています。
「どちらかといえば仕事等が優先」も、希望の33.9%から、現実には61.5%と2倍になっています。現実には男性の8割の人が仕事中心の生活を送り、その半分の人がそれを希望していないこととなります。

「仕事と家事・育児を同等に重視」を希望する人は、54.7%に達し、現実には、「仕事と家事・育児を同等に重視」の生活をしている人は、その4分の1の13.9%に減少しています。女性の半減と比較して、大幅な減少といえます。
「家事や育児に専念」を希望する人が、37人2.9%あり、現実には「家事や育児に専念」している人も、8人0.1%いらっしゃいます。現実には家事育児に参加している男性は2割に留まるが、希望する人はその3倍6割にも達しています。

	女性		男性	
回答なし	96	5.3%	74	5.8%
希望と現実が一致	827	45.4%	533	41.5%
希望と現実が一致しない	898	49.3%	676	52.7%



※仕事等と家事・育児のバランスについて

自分自身について、希望と現実が一致している人、一致していない人の割合を男女別に表しました。

10. 仕事等と家事・育児のバランスについて パートナーについて

次にあなたから見たパートナーについてお答え下さい。

* 希望としては、

仕事等社会的活動に専念 どちらかといえば仕事等が優先

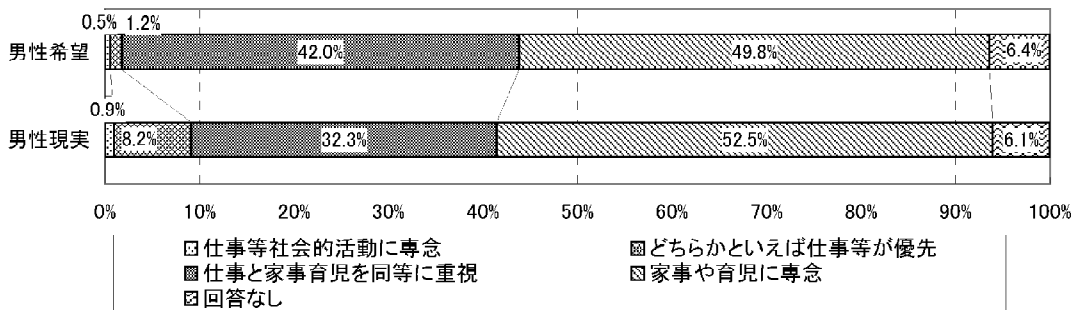
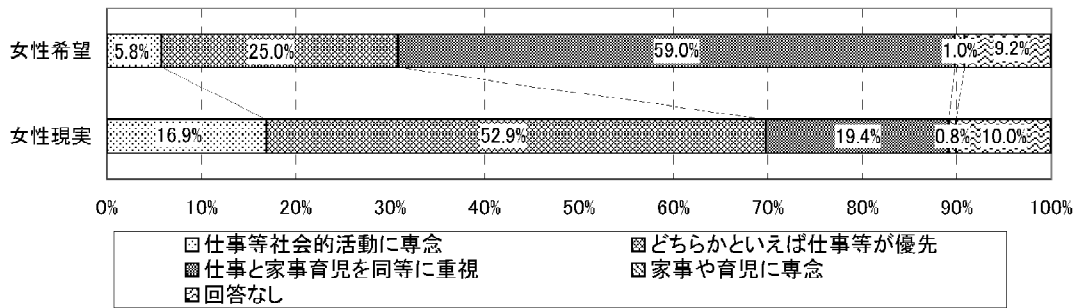
仕事等と家事育児に同等に重視 家事や育児に専念

* では、現実には、

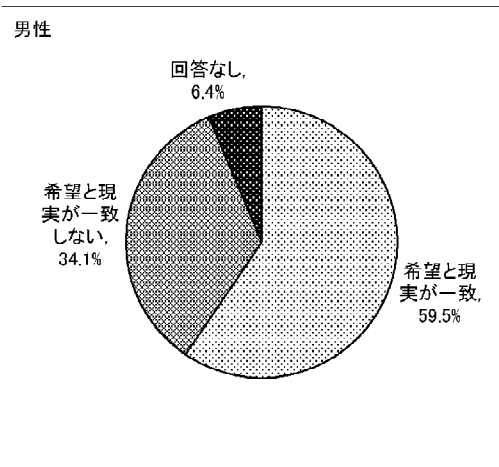
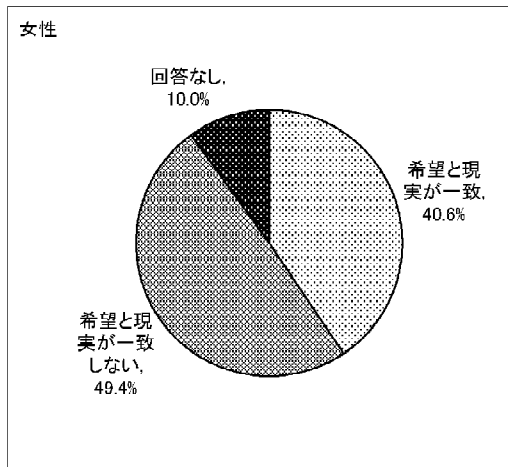
仕事等社会的活動に専念 どちらかといえば仕事等が優先

仕事等と家事育児に同等に重視 家事や育児に専念

	女性		男性		不明	
	希望	現実	希望	現実	希望	現実
回答なし	167	9.2%	183	10.0%	82	6.4%
仕事等社会的活動に専念	105	5.8%	307	16.9%	7	0.5%
どちらかといえば仕事等に優先	456	25.0%	964	52.9%	16	1.2%
仕事等と家事育児に同等に重視	1075	59.0%	353	19.4%	539	42.0%
家事や育児に専念	18	1.0%	14	0.8%	639	49.8%
計	1821	100.0%	1821	100.0%	1283	100.0%



	女性		男性	
回答なし	183	10.0%	82	6.4%
希望と現実が一致	739	40.6%	763	59.5%
希望と現実が一致しない	899	49.4%	438	34.1%



※仕事等と家事・育児のバランスについて

パートナーについて、希望と現実が一致している人、一致していない人の割合を男女別に表しました。

女性から、パートナーについて

「仕事等に専念」「どちらかといえば仕事等が優先」を希望する人は、合わせて3割であり、現実には7割強となっています。

「仕事と家事・育児を同等に重視」を望む人は、59%ですが、現実には、19.4%と3分の1になります。「家事や育児に専念」を希望する人は、1%に対し、現実には0.8%と差異がありません。

6割の女性が、パートナーに対して、「仕事と家事・育児を同等に重視」する生活を希望し、現実には、7割強のパートナーは、仕事中心の生活をしていることとなります。

男性から、パートナーについて

「仕事等に専念」「どちらかといえば仕事等が優先」を希望する人は、1.7%に対し、現実には、9.1%と5倍になります。

「仕事と家事・育児を同等に重視」を望む人は、42%から、現実には32.3%に減少します。「家事や育児に専念」を希望する人が、49.8%、現実には、52.5%と差異はわずかとなります。

9割の男性が、パートナーに対して、「家事・育児に専念」することまたは、「仕事と家事・育児を同等に重視」を希望し、現実には8割のパートナーは、家事育児に専念或いは、同等に重視する生活を送っていることとなります。

11. パートナーに望む家事・育児参加は

- ゴミだし 掃除 食事の支度 食事の片付け 買い物 洗濯
自治会等の行事 子どもと遊ぶ 子どもの送迎・学校行事
子どもが病気の時に休む 子どものしつけ その他()

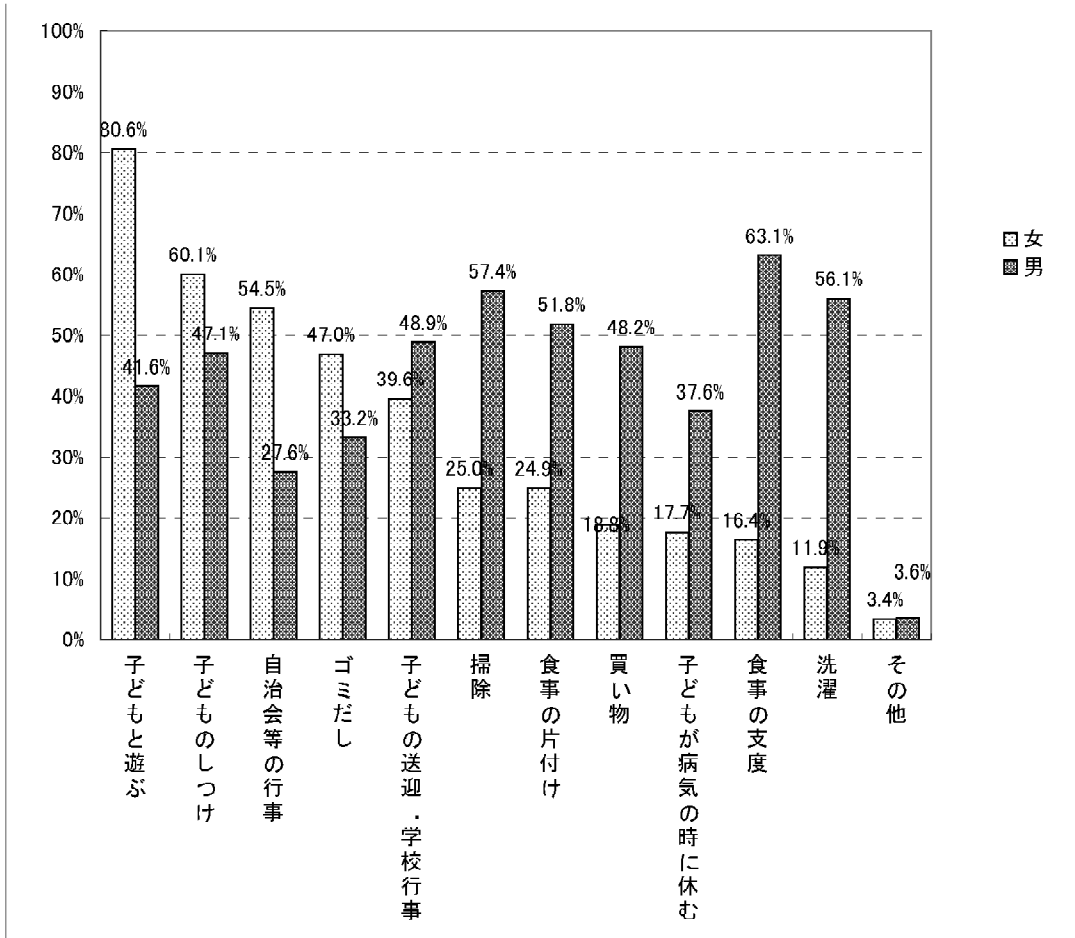
	女性		男性		不明	合計	
子どもと遊ぶ	1468	80.6%	534	41.6%	3	2005	64.1%
子どものしつけ	1094	60.1%	604	47.1%	3	1701	54.3%
自治会等の行事	993	54.5%	354	27.6%	2	1349	43.1%
ゴミだし	855	47.0%	426	33.2%	5	1286	41.1%
子どもの送迎・学校行事	721	39.6%	627	48.9%	4	1352	43.2%
掃除	455	25.0%	736	57.4%	5	1196	38.2%
食事の片付け	454	24.9%	665	51.8%	3	1122	35.8%
買い物	343	18.8%	618	48.2%	6	967	30.9%
子どもが病気の時に休む	323	17.7%	482	37.6%	3	808	25.8%
食事の支度	299	16.4%	810	63.1%	4	1113	35.6%
洗濯	217	11.9%	720	56.1%	3	940	30.0%
その他	62	3.4%	46	3.6%	0	108	3.5%
計	3729		5130		33	8892	

※複数回答あり

※%はそれぞれ男女別総数に対する割合

女性が男性に望む家事・育児の上位は、子どもと遊ぶ、しつけ、自治会等の行事です。但し、子どもに関することでも、子どもが病気の時に休むは、下位となっています。

男性が女性に望む家事・育児の上位は、食事の支度、掃除、洗濯と家事に偏っています。

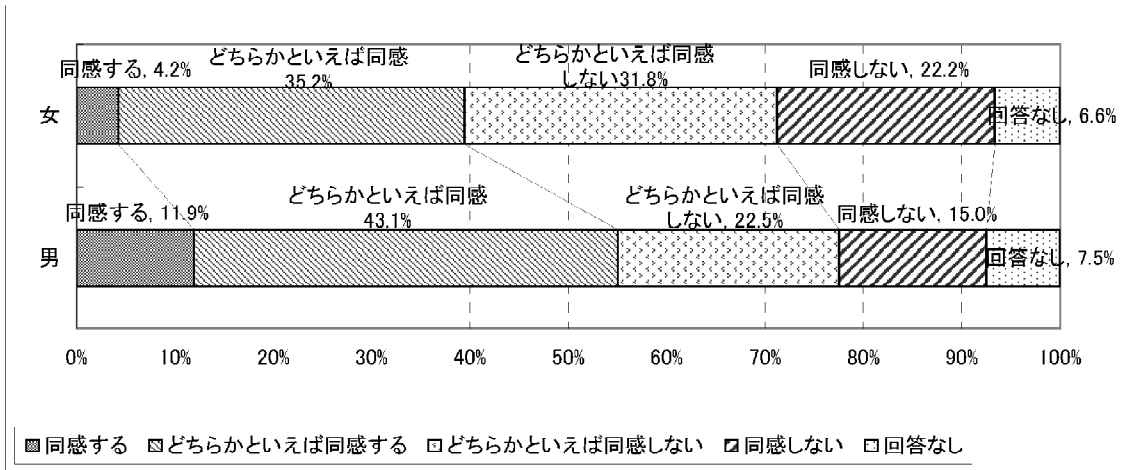


※女性が男性に望む家事・育児の多い順に表しました。

12. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

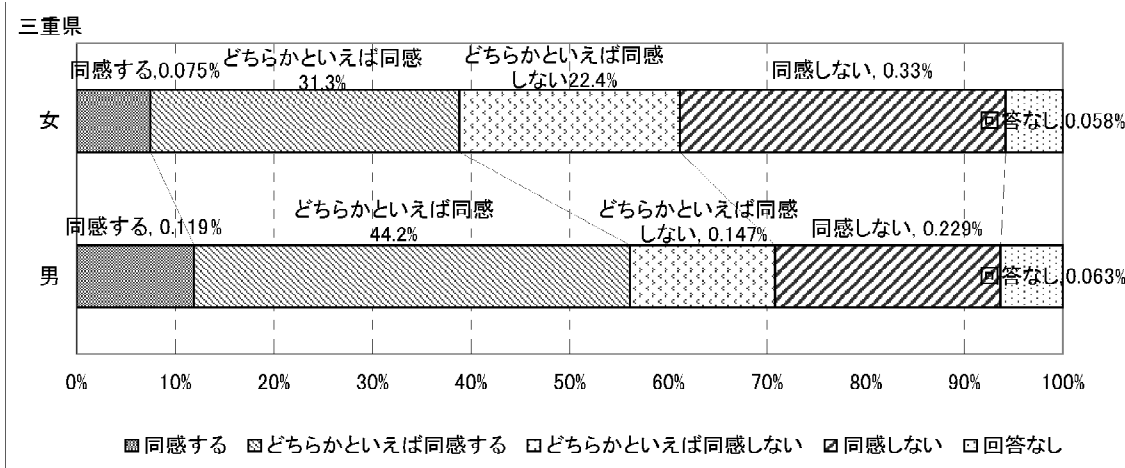
□同感する □どちらかといえば同感する □どちらかといえば同感しない □同感しない

	女性				男性				不明	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
回答なし	120	6.6%			96	7.5%			15	
同感する	77	4.2%	718	39.4%	153	11.9%	706	55.0%	0	1
どちらかといえば同感する	641	35.2%			553	43.1%			1	
どちらかといえば同感しない	579	31.8%	983	54.0%	289	22.5%	481	37.5%	3	7
同感しない	404	22.2%			192	15.0%			4	
計	1821	100.0%			1283	100.0%			26	



三重県

	女性	男性
回答なし	5.8%	6.3%
同感する	7.5%	11.9%
どちらかといえば同感する	31.3%	44.2%
どちらかといえば同感しない	22.4%	14.7%
同感しない	33.0%	22.9%
計	100.0%	100.0%



データ出所：三重県男女共同参画室「男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査」平成18年度

女性の4割が、「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感、どちらかといえば同感すると答えています。おなじ項目で、男性は、5割強の人が同感、どちらかといえば同感すると答えています。

この意識を三重県のデータと今回の調査結果を比較してみると、女性男性ともあまり差異がありません。

13. 一般的に、人権が尊重されていないと感じることは、どんなことですか。

この様な記述式の回答を正確に分類することは非常に難しいことでした。どこに分類されるか検討はしましたが、多少のあいまいさが残ることはご承知いただきたい上でご覧になっていただきたいと思います。さまざまな観点からのご回答をいただき、かなりたくさんの方の抜粋になりました。

全体で642(内分類不可能36)の回答がありました。

男女の性別を理由に人権を侵害されている		
男は仕事、女は家庭という役割についての固定観念	118	215
職業・職場において感じる男女差別	49	
女性であるというだけで差別	48	
人権全般		
社会的問題意識	105	261
障害・年齢・同和・人権・学歴による差別	48	
いじめ・虐待・パワーハラスメント・戦争・暴力等	108	
母子・父子家庭に関して	11	
子どもがいることで受ける差別	32	
労働環境中での人権侵害	60	
その他全般	19	
感じない	8	
合計	606	

男女の性別を理由に人権を侵害されている…215

◆男は仕事、女は家庭という役割についての固定観念◆118

- ・「お母さんが仕事に出ているから子どもが保育園に入れられ可哀そう」「旦那さんに洗濯やご飯の付けをさせて可哀そう」といわれる。
- ・子育て、介護は女性がするのが当たり前とされ、育児介護休暇を取る男性は圧倒的に少ない。(多数、男性も)
- ・家や子どものことはすべて自分ひとりにかかってくる。(女性多数)
- ・女だから、嫁だから、主婦だから、母親だから、といわれる(多数)
- ・共働きになると、結局女は仕事と同時に、家事、育児をしなくてはならなくなり(多数)、パートナーの理解と、協力し合うことが大切になる。
- ・子どもが病気になっても父親は休めない。基本的に女が看るのが当たり前(多数、男性も)
- ・家庭や育児の重圧の中で経済的に自立が不可能になり、アイデンティティーが失われているのがつらい。
- ・親戚が集まったときなど、必ず女性たちが、料理などで立ちっぱなしで働かなくてはならず、男性は座って飲み食いしていること。
- ・男性用トイレにオムツ替えベッドが無い。
- ・なぜ男が主に働かなくてはいけないか。

- ・ 男が家庭に入ってはいけないという周りの目
- ・ 女性は出産したら会社を辞めるという固定概念・子育てを女性の役割と思い込む企業経営者。

◆職業・職場において感じる男女差別◆49

- ・ 会社では男女平等の意識が広まっているが、「これは女性には無理」とやらせる前から決め付けている男性がまだいる。
- ・ 営業を男の人と同じ仕事をし、同じ成績でも男の人のほうがボーナスが多かった。
- ・ 最近では産休後仕事復帰する人が増えたが、自分の取った10年前は子どもが可哀そうだから辞めたほうが良いと上司によく言われた。
- ・ 職場での女性の待遇・仕事の分担・昇進・雑用等全般
- ・ 女のくせに上座に、といわれたとき。
- ・ 男性は職場から早く帰りにくい。
- ・ 厳しい仕事は当然のように男性に任せられる傾向
- ・ 女性でも実力があれば社会的地位が向上すべき

◆女性であるというだけで差別◆48

- ・ 女性が軽視されている。(多数)
- ・ けんかになった時など、「誰のおかげで生活できている」といわれる。
- ・ 家事や育児に専念するものは社会的役割が低いという認識がある。(多数)
- ・ 女性の思想の自由・行動の自由をパートナーによって束縛されているとき。
- ・ 専業主婦というと三食昼寝付でいい生活だといわれる。仕事も大変だが、365日24時間休みの無い家事・育児を軽く考えられていることが悲しい。(多数)

◇社会的問題意識◇105

- ・ 虐待・ストレス社会・病気・障害のある人、いろんな人間が世の中で一人ひとりが自分を、他人を大切に思いやる気持ちを育てる教育、意識の低さを感じる。
- ・ 権力や力に物を言わせて弱者を守る心が欠けている社会
- ・ 仕事場でロッカー室からすべてのところに監視カメラが回っているところ。
- ・ 自分を認めてもらえたときうれしい。
- ・ 弱いものに社会はゴミ扱いしている。社会は強いものだけ生きて弱いものは死ねと言っているような気がしてならない。
- ・ 人が人として生きにくくなっている。
- ・ 今は人権の尊重に対する意味をはき違えて、おかしい方向に行っている。
- ・ マスコミ報道
- ・ 個人情報
- ・ 古い日本社会の考え方に人権の尊重はない。日本人に人権はない等
- ・ 急速な喫煙規制・増税率が昇給より早い。
- ・ 上からの目線で『平等』といわれるとき
- ・ 人間として扱われていない。

◇障害、同和問題、人種、学歴等における差別◇48

- ・ 障害児に理解を示したように振舞いつつも、現実には全く障害者のことを分かっていないことが多い。特に社会的立場のある人に目立つ。各種の指導的立場にある人間はよほど人権感覚が必要と感じる。
- ・ 知的障害児を抱えているが、夫に出産した妻が悪いと責められたり、障害に対して無理解で、障害者を馬鹿にした発言をしたり、身近にいるものから心無いことを言われる。
- ・ 障害児の母親は、子どもに対する手当てはあるが、訓練や病院に通ったりすることがあるので、仕事をしたくても出来ない。そういった親に対する福祉は全く無いことを感じている。
- ・ 障害児の母はすべて我慢で人権の尊重も何も無い。もっと理解のある世の中になってほしい。
- ・ 差別問題・差別という言葉がいまだに使われること(多数、女性も)
- ・ 殺人事件で被害者の人権が侵害され、加害者の人権が尊重されること。
- ・ 障害者・介護者に対する偏見
- ・ 被差別部落。被差別部落の行政支援
- ・ 外国人に対する権利侵害

◇いじめ、虐待、戦争、パワーハラスメント、暴力等◇108

- ・ 夜遅くにしょっちゅう外に連れまわすなど大人中心の生活。
- ・ 親の厳しいしつけは子どもの人権を無視していると感じるときもある。
- ・ 子どものいじめ、虐待など心が痛む。
- ・ 子ども、身体的、知的障害などの人の目線で社会がつくられていない。いじめをしていることなど。そ

れを放って置く私たち。尊重されていないという前に尊重していない自分がいます。

- ・ 戦争をしていること。
- ・ いじめ(男性に関心が高い)
- ・ 人権侵害の最たるものは戦争

母子家庭、父子家庭に関して…11

- ・ 女の方は働きたいのに子どもを預けにくい。子どもは母一人で育てるのでなく、みんなで助け合って育てていくものだと思う。一人では絶対つらい。
- ・ 母子、父子家庭に理解がない。
- ・ シングルマザー・シングルファーザーのはけ口の無さ。頑張っているのが認められたらいいのに。
- ・ 母子家庭の援助はあるが父子家庭への援助がない。

子どもがいることで受ける差別…32

- ・ 出産後仕事に戻ったとき冷たい目で見られた。
- ・ 仕事で子どもが病気のとき休むことが難しく上司にいやみを言われる。
- ・ 子どものことで仕事を休むのは母親が多い。
- ・ 子どもが小さいうちは、母親はうちにいるほうがいいといわれる。
- ・ 子どもを持つと働くところがない。
- ・ 公共の場において、子ども連れという事を迷惑がられたとき、子どもがいても生活しやすい世の中になればいい。
- ・ 仕事をしたくても、小さい子どもを持ちながら働ける職場は少なく、子どもが大きくなる頃には年齢制限に引っかかり職が無い。

労働環境中での人権侵害…60

- ・ サービス残業等、社会はまだまだ仕事中心で、格差社会の中で最低賃金者への扱いに差別、長い労働時間とそれに見合わない賃金(多数、男性も)
- ・ パートナーの仕事に割かれる時間が長すぎ「夜は寝るために帰る」状態の時、人としての生活ができないという気持ちになり、何のために働いているのか分からなくなる。
- ・ 企業社会において、人間の労働力を商品としか見ていないところ。
- ・ 効率ばかり優先させて、働く環境を無視されたとき
- ・ 国が労働時間の規制を厳密に定めるべき(ゆとりのある生活をすごせるために)労働基準法に引っかかる労働体制
- ・ 競争社会で時間的ゆとりがない、労働時間や休暇制度が会社に普及していない。

- ・ 会社でのパワーハラスメント・束縛されすぎ(多数)
- ・ 一生懸命働いても裕福になれない。
- ・ 子どもに関してのことで休むこと、育児休暇に職場での理解がない。
- ・ 法的に確立している育児休業等々の制度が中小企業などでは全く活用されていないなど、労働者(生活者、出生率向上への家族支援)の人権が確立していない。

その他、全般…19

- ・ こういうアンケート自体意味を感じない。夫婦なので相手を書いてあることを見るのでけんかの元になるだけ、四日市のほんの一部でしか行っていないので変化は無い。
- ・ 質問に「？」の部分が多い。「男は家事をしない」が前提の質問だと思う。家庭での助け合いは「出来る人がする」が基本。男性に求めるだけ女性も稼ぎがないとだめ。
- ・ 女性が男性と全く同じに働くことが同等とは思わない。各々の特性(得意分野)も在るし、子どもを産む・育てるという時間はとても大切。女性が復帰しやすい環境づくりが大事だし、女性にも信念が必要。
- ・ 真の男女共同参画とは女性が男性のように働くことではないと思う。今の社会のように利益や効率優先の世の中であることが、人権を尊重されていないと感じる原因だ。
- ・ 「…されていない」というような、自分をカヤの外に置いているような考え方は持たないようにしています。私自身が人権を尊重しているか、考え方や行動に気をつけるようにしています。
- ・ 女性社会も存在しており、男性が入っていくことを受け入れない部分もある。女性の被害者的感覚も改めるべきところがある。男が家事に参加するというような小さな問題ではない。
- ・ 自分自身がいつも差別をする側にたつ可能性があり、そのようなことのないよう気をつけているが、まだまだ人権を尊重していないと感じることが多く反省している。

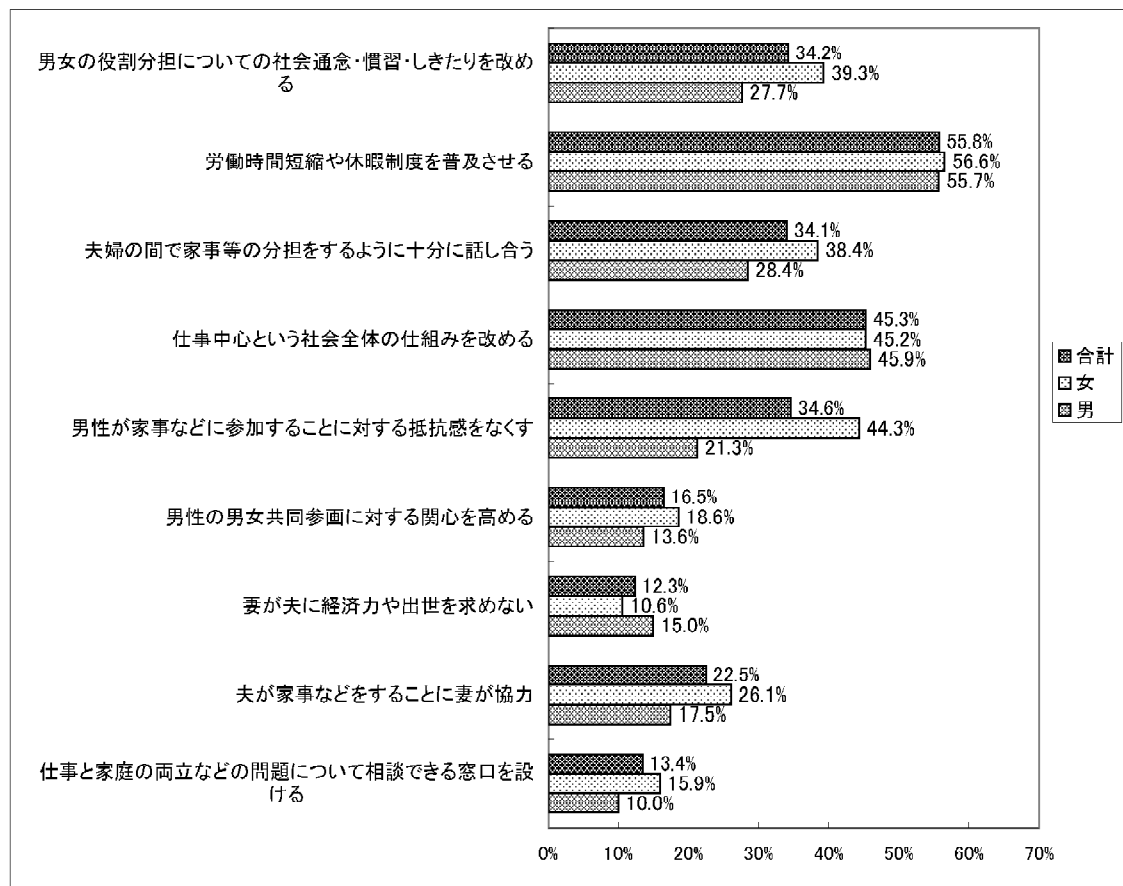
問題意識は感じない…8

14. 男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動等に積極的に参加していくために必要なことはどんなこととお考えですか。

	合計	女性	男性	不明
男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりを改める	1071 34.2%	715 39.3%	355 27.7%	1
労働時間短縮や休暇制度を普及させる	1747 55.8%	1030 56.6%	715 55.7%	2
夫婦の間で家事等の分担をするように十分に話し合う	1067 34.1%	700 38.4%	365 28.4%	2
仕事中心という社会全体の仕組みを改める	1418 45.3%	824 45.2%	589 45.9%	5
男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくす	1083 34.6%	807 44.3%	273 21.3%	3
男性の男女共同参画に対する関心を高める	515 16.5%	339 18.6%	174 13.6%	2
妻が夫に経済力や出世を求めない	386 12.3%	193 10.6%	192 15.0%	1
夫が家事などをするに妻が協力	704 22.5%	475 26.1%	224 17.5%	5
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける	420 13.4%	290 15.9%	128 10.0%	2
計	8411	5373	3015	23

※複数回答あり

※%はそれぞれ男女別総数に対する割合



社会の制度・仕組み・通念を改めることが上位を占めています。
個人の意識や行動に関しては、「夫婦間の話し合い」と「男性が家事等に参加する抵抗感をなくす」が上位となっています。

配布したアンケート

『子育て世代のワーク・ライフ・バランス』アンケート協力をお願い

この度四日市市男女共同参画課より「男女共同参画をめざしての調査・研究事業」を受託しました NPO 法人体験ひろば☆こどもスペース四日市と申します。

子育ては本当に大変な仕事です。もちろん喜びも大きいのですが、それは家族や地域の支えがあつてのことだと思ひます。育児と家事を含む家庭生活とそして仕事を、パートナー同士がどう係わり合い担ひ合つてゐるのか、そのあり方が今問われてゐると思ひます。

私どもは、一人一人が人間として自分らしく生きることを保障する社会に近づくため、皆さんの今の意識、生活の実態そして望んでいられたいことについて、「子育て世代のワーク・ライフ・バランス」と題して調査・研究いたします。「ワーク・ライフ・バランス」とは仕事と家庭をうまく調和させることを言ひます。つきましては、乳幼児を育ててゐる皆さんにアンケートを、お願いいたします。

なお、このアンケートの結果は、個別の回答等を公表したり、この事業目的以外に使われることはありません。また、2007年2月ごろに冊子にまとめ、皆さんの保育園・幼稚園に戻させていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

※ アンケートは、お一人お一人お答へください。

※ 記入後、封筒に入れてお戻しくください。

NPO 法人体験ひろば☆こどもスペース四日市

四日市市男女共同参画課 調査・研究委託事業アンケート

該当する項目の□にチェックを入れてください。

- 1、あなたは、 10代 20代 30代 40代 50代
- 2、あなたは、 女性 男性
- 3、あなたは、パートナーがいますか。 いる いない
- 4、あなたは、子どもがいますか。何人ですか。何歳ですか。
二人以上の場合も、それぞれの年齢をお答えください。
(人 歳)
- 5、あなたの就労形態は、 フルタイム パート 在宅就労 無職
- 6、あなたの家庭は、
共働き 自分だけ働いている パートナーだけ働いている 2人とも無職

7、あなたの生活時間について 一日のうち、それぞれに費やす時間をお答えください。

* 普段の日は、

睡眠・食事等	(およそ	時間	分)
仕事・通勤	(およそ	時間	分)
家事・育児・介護等	(およそ	時間	分)
趣味・娯楽等	(およそ	時間	分)

* 休日は、

睡眠・食事等	(およそ	時間	分)
仕事・通勤	(およそ	時間	分)
家事・育児・介護等	(およそ	時間	分)
趣味・娯楽等	(およそ	時間	分)

8、現在のあなたの働きやすさについて

働きやすいと思う 働きやすいとは思わない わからない

9、現在働いている方に ※いくつでも該当するものをチェックしてください。
働く理由は何ですか。

経済的理由 自己実現 その他()

働いていない方に

働かない理由はなんですか。

家事・育児のため 働きたくない 身体的理由 その他()

10、仕事等と家事・育児のバランスについて

まずあなた自身についてお答えください。

* 希望としては、

- 仕事等社会的活動に専念
どちらかといえば仕事等が優先
仕事等と家事育児を同等に重視
家事や育児に専念

- * では、現実には、
 - 仕事等社会的活動に専念
 - どちらかといえば仕事等が優先
 - 仕事等と家事育児を同等に重視
 - 家事や育児に専念

次にあなたから見たパートナーについてお答えください。

- * 希望としては、
 - 仕事等社会的活動に専念
 - どちらかといえば仕事等が優先
 - 仕事等と家事育児を同等に重視
 - 家事や育児に専念

- * では、現実には、
 - 仕事等社会的活動に専念
 - どちらかといえば仕事等が優先
 - 仕事等と家事育児を同等に重視
 - 家事や育児に専念

1 1、パートナーに望む家事・育児参加は、 ※いくつでも該当するものをチェックしてください。

- ゴミだし 掃除 食事の支度 食事の片付け 買い物 洗濯
- 自治会等の行事 子どもと遊ぶ 子どもの送迎・学校行事
- 子どもが病気のときに休む 子どものしつけ その他()

1 2、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、

- 同感する どちらかといえば同感する どちらかといえば同感しない 同感しない

1 3、一般的に、人権が尊重されていないと感じることは、どんなことですか。

1 4、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動等に積極的に参加していくために必要なことは、どのようなこととお考えですか。

※いくつでも該当するものをチェックしてください。

- 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりを改める
- 労働時間短縮や休暇制度を普及させる
- 夫婦の間で家事等の分担をするように十分に話し合う
- 仕事中心という社会全体の仕組みを改める
- 男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくす
- 男性の男女共同参画に対する関心を高める
- 妻が夫に経済力や出世を求めない
- 夫が家事などをすることに妻が協力する
- 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける

ご協力ありがとうございました。

NPO法人体験ひろば☆こどもスペース四日市

まとめ

当初の予定ではアンケート対象を1000家庭としていたのですが、もっと広範囲にと欲張ったことは、後で大変な思いをすることになりました。

保育園、幼稚園の多大な協力を得まして回収率63.7%と3000人を超えるアンケートが集まりました。回答者の41%が男性からというのも若い世代の男女の意識が平らになってきているのではないかと感じました。また、年齢的にも20代、30代がその81.4%を占めるということで、昨年四日市市で行った男女共同参画に関する意識調査では1094サンプル中、50歳以上が56.6%だったことから、この調査の意味はあったと思います。アンケート内容については、あまり多いと答える気がしないという若い世代の意見を参考に、答え易さを優先させました。また、他との対比を考えた設問も用意しました。

設問の4、5から働いている女性と働いていない女性の子どもの数を分析したところ、働いている女性の方が子どもをたくさん持っている人が多いことが分かりました。

就労形態（設問5）から女性のフルタイム就労は2割弱と低いもののパート、在宅就労を合わせると6割弱の人が働いているということになり、この時代の幼児を抱えたお母さんの職業観（働くことが当たり前）があらわされています。ただし、その働き方は家事育児優先であり、家事育児の傍らということも見えます。

働きやすさの設問（設問8）では、働いていない方も答えてくださったことから、全体での分析と、パートを加えた、働いている方の分析と両方出してみました。女性の働いている方では、パート労働者の満足度が高いという結果が出ています。また、男性は60%弱の人が働きやすいと答えているのに対し、女性は36%となっています。ところが、働いている人対象では、女性も男性も60%前後の人が働きやすいと思っています。このことは、働いていない女性が男性（パートナー）を見て働きやすさを感じないことを示しているのではないかと考えられます。男性は職業に対して意欲を感じ、女性は客観的にその男性を見て働きやすいとは感じていないのではないのでしょうか。子育て中のお母さんがよく言っている、「お父さんの帰りが毎日遅くて子どもを一人で見なくてはいけない。」「土曜、日曜日もお父さんが疲れて寝ていたりして子どもと遊んでくれない。」「どこへも連れて行ってくれない。」という事実に対し、男性と女性の意識のずれ違いがあるということでしょう。

同様に設問7の生活時間の項においても専業主婦家庭の家事、育児時間は女性平日13.22時間が、休日11.59時間とわずかに減っているもののあまり変化がありません。一方、男性は1.17時間から7.07時間に大幅に増えていることは、休日に男性が特

別の家事をしているのか、上記のような意識のずれがあり、休日はかなりの時間家事育児をしていると感じているのではないかと推測します。

一方、共働き家庭の家事育児時間を見ますと、平日の男性は専業主婦家庭と殆ど変わらない家事育児時間で、しかも休日は専業主婦家庭の男性より短くなっています。片や女性は平日6.47時間から休日10.47時間と一週間の家事育児のしわ寄せが女性の肩にかかっていることが分かります。その分男性は趣味娯楽時間が4時間以上増えています。

それにしても共働き家庭も専業主婦家庭も男性の仕事・通勤にかける時間が12時間以上という過酷な労働の実態が浮かび上がってきました。

参考資料として全国の統計も載せました。全国のデータは、平日・休日の平均、全世代対象となっていますので単純な比較はできませんが、男性の家事育児時間が1時間に満たないということは四日市の男性は家事をする方だということでしょうか。

働き方の分析について、話し合いの過程で「パート就労」のとらえ方の違いがあるのではないかと、例えばパートタイム労働者と見るか、派遣社員などの非正規雇用者と見るかが今回のアンケートでははっきりしないことが分かりましたが、労働条件の良し悪しは兎も角、パート就労は柔軟な働き方として「働きやすい」と考えられているのではないかと思います。そういう点では、子育て世代の女性は、オランダ、北欧のワークシェアリングのような、子どもと過ごす時間が多く取れる働き方を望んでいるといえるのではないのでしょうか。

設問9の働く理由ですが、男性の97%がフルタイムで働き、働く理由はその95%が経済的理由であり、女性のフルタイムは19.5%であり、働かない理由に家事・育児をあげているところを見ると家庭での役割分担意識があることがうかがえます。

一方女性の働く理由でも83%は経済的理由ではありますが、27.5%が自己実現とし、その他の記述回答の中でも自己実現、ストレス解消などが多くあがっていることから、女性が家庭生活では得られないものを求め働くことを選ぶ姿もうかがえます。

設問10での希望と現実の対比からも子育て家庭の問題が浮き彫りになってきます。女性と男性、数字に大きな開きがありますが、どちらも「仕事等社会活動に専念したい」と希望する人は少なく、「家事・育児を同等に重視したい」と希望している人が多くなっています。しかし現実には仕事等に専念している時間が圧倒的（どちらかといえば…を入れると2倍）に多くなっています。その中で注目すべきデータは、仕事と家事育児のバランスにおいて、「同等に重視したい」希望を持っている男性が54.7%（同女性60.6%）で、希望と現実が一致しないと答えている男性が52%もいることが分かりました。男性ももっと仕事以外の生活を充実したいということでしょうか。

ただし、パートナーに対しての希望を見ますと、女性の答えは、自分自身を見ての答えとあまり違いませんが、男性ではパートナーに希望も現実も「家事や育児に専念」して欲しいと思っている人が50%前後と多いことが特徴です。ただ「家事・育児と同等に重視」

という希望が現実を10ポイントも上回っていることにかすかな望みがもてます。

次にパートナーに望む家事の中で、女性が男性にしてほしい家事、育児は圧倒的に子どもと遊ぶこと次に子どもの躾と、子どもに関することが多くもっと子どもとかわって欲しいとの思いが表れています。ただし、子どもの病気のときに休んで欲しいと思っている女性は少なく、社会的に理解を得られていない（記述式から）からか、難しい子どもの世話は男性にはできないこともあるかと思えます。食事の支度、掃除、洗濯と3大家事が女性の仕事として位置づけられ、男性と女性の意識が一致しています。この結果から、女性にとって毎日子どもと向き合っていることがかなり負担であるということと、掃除・洗濯・食事の支度という男性は苦手であり、女性も能力的に無理だろうと男性に期待しないということでしょうか。

さて「男は仕事、女は家庭という考えについて」という設問12ですが、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた意見では、女性が39.4%、男性が15ポイントの差で上回り55%となっています。これは平成18年三重県の男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査(20歳以上対象)の結果の男性56.1%に近い数字が出ています。ちなみに女性は、38.8%となっています。これを見て四日市の若い世代が男女共同参画に対して保守的と見るかどうか、何ともいえませんが、ひとつの特徴であるとはいえます。

今回「人権が尊重されていないと感じることはどんなことですか。」という問いに、唯一記述式回答を求めました。どのくらいの方が答えてくださるだろうかと不安がありましたが、642人の方(女性412人、男性230人)からの回答を得ることができました。分類に多少の曖昧さはありますが、次の点が印象に残りました。(内分類不可能36)

子育て中の女性からは日常の生活の中で、女性であることでいろいろな制約を受け苦しい思いをしていることがその表現から感じました。これについては男性からも多く声が寄せられていました。特に社会的役割分担については、夫からというより職場や周りからの圧力に近い言葉で傷つけられている様子もうかがえました。

男性は労働の中で、また格差社会の矛盾など、人間として尊ばれていないことに苦しさを訴えていました。

いじめ、虐待、戦争等の社会問題については女性も大きな関心を寄せていましたが、特に男性に強くその傾向が見られました。母子父子家庭については当事者が少ないということもあり回答は少なかったのですが、公的機関でみんなの前で差別発言を受けたという回答もありました。他の分類でも同様の回答がいくつかありましたが、例としては載せませんでした。「その他、全般的なことに対して」という分類には、大変示唆に富む意見も多く、数に比べ多くの意見を載せてみました。

最後に男性が家事、子育て、地域活動等に参加していくために必要なことという点では、

やはり労働時間、休暇制度、仕事中心の社会の仕組みを変えるなど、働き方の変化をあげる人が男女とも圧倒的に多く、次に家事への参加をし易くするために、社会通念を変える、話し合う、男性の意識を変えるなどの選択肢が、男性より女性から多くあげられています。

すべての分析を終え、四日市では若い世代に男性は仕事、女性は家事という役割意識が強いという特徴がありながらも、働き易い条件があれば働きたいと思う女性も多く、また、女性だから、子どもがいるからということで苦しい思いをしている人も非常に多いということも分かりました。また、男性についても、人間らしく生きたいという強い思いも分かりました。このアンケートを通じワークライフバランスの重要性をこれほどまで実証できるとは思ってもみないことでした。

■編集後記

集計は、私たちの持ち前のバイタリティーで、ひたすら入力するしかないと考えていました。こどもスペースの若いお母さん達に少しぐらいは助けをもらおうと相談したところ、引き受けてくれました。そして、能率よく入力できるフォームを作り、分担して入力、集計したデータをグラフへと鮮やかに仕事をこなしてくれました。

女性、男性ともに多くの方から回答いただいたこと、また自由記述欄だけではなく他の設問についてもたくさんのご意見をいただいたことから、男女共同参画やワークライフバランスについての関心の高さが伺えました。

また、一口にワークライフバランスと言っても、制度上の問題、社会の意識、働く環境、家庭内での意識、個人の考えなど多様な側面をもつ課題であり、捉え方は人それぞれであり、今後、論点を絞った調査や分析が必要であると再認識しました。

実行委員

水谷 孝子 岩井 真理 中西 和美 鶴 友子 上田 真紀子
伊藤 知美 儀賀 和美 米川 理恵子 浜中 久美子

スタッフ

富永 郁子 豊田 昌代 平尾 典子

平成 18 年度

四日市市男女共同参画課 調査・研究事業報告書

発行日 平成 19 年 3 月

編集 NPO 法人 体験ひろば☆こどもスペース四日市

発行 四日市市男女共同参画課

〒510-0093 四日市市本町9-8 本町プラザ3F

TEL 059-354-8331

fax 059-354-8339